

# 川崎医科大学の大学連携活動「大学コンソーシアム岡山」について

川崎医科大学 衛生学 大槻 剛巳 (6期)

川崎医科大学では、大学コンソーシアム岡山に入っています。大学コンソーシアムとは『個別に取り組むと手間や費用がかかる事業を共同で行うため、近隣の大学などが集まった組織。加盟する学校間で単位互換をしたり、協力してインターンシップの派遣先を探したりしているケースが多い。全国大学コンソーシアム協議会に加盟しているだけでも、北海道から鹿児島県まで 2014年4月1日時点で44組織がある。1994年に国内で初めてできた「大学コンソーシアム京都」は、京都大や立命館大など50校近くが加盟する。インターンシップ前と修了後に各大学から出た教員が講義を行うなど、さまざまな先進的な取り組みが他のコンソーシアムの目標となっている。』といったもので、大学コンソーシアム岡山も2006年に開設されました。大学コンソーシアム岡山の設立主旨を転載しますと『学術の進展、産業構造の変化、国際化・情報化による社会の変革のなかであって、高等教育機関の果たすべき役割は大きく、社会からの期待やニーズも拡大をするとともに多様化している。本会は、岡山県内の高等教育機関の連帯と相互協力により、持てる知的資源を積極的に活用し、また、地域社会および産業界との緊密な連携推進によって、「時代に合った魅力ある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」を目指し、その実現に取り組む目的で、平成18年4月に設立された。本会では、上記目的のため、「大学コンソーシアム岡山」を設立し、次の事業を行う。●大学相互の協力と情報交換●地域経済界との交流●地域社会との交流と生涯学習の推進●地域高校との連携●地域創生学の構築●地域発信による国際交流(WEBより)』ということです。

川崎医科大学も設立当初から参画しています。私は2009年から学長補佐職の担当として、大学連携や産学官連携に関連した役割ということで、また2013年からは副学長補佐として川崎医科大学の大学コンソーシアム岡山への窓口役を担当しています。

大学コンソーシアム岡山には、県内の四年制以上の16大学と、岡山県そして岡山経済同友会が会員となっており、いくつかの事業部の中で、活動をしています。まず大学教育事業部ですが、もちろん、個々の大学は、18歳人口が全大学の入学定員人口より少なくなった段階で、個別に学生獲得を目指して厳しい戦いを余儀なくされています。川崎医科大学は医学部医学科しかありませんし、幸いにも附属高校からの入学生、それと将来地域医療(特に岡山県を中心として)に携わることを前提とした特別推薦入試枠の学生のほかに、いわゆる一般入試がありますが、その受験者数も十分確保できている状況で、この点は現状ではあまり心配がないと感じられますが、関連の川崎医療福祉大学や川崎医療短期大学などでは、高校を回ったり、積極的精力的なオープンスクールの開催や、大学紹介のイベントへの参加なども、活発に展開されています。とはいえ、地元、岡山県でも、他の大学はゴールデンタイムにTVのCMを流されたり、JRその他の交通機関へ

大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山事務局  
岡山市北区建大町1-1 岡山理科大学内

お問い合わせ

大学生の皆様へ 高校生の皆様へ 社会人・地域社会の皆様へ 教職員の皆様へ 大学コンソーシアム岡山とは

PICK UP!!

- 加盟校等からお知らせ
- イベント実施報告
- 大学生の皆様へ
  - 単位互換について
  - コーディネーター紹介
- e-Learningシステム  
まなびオルガニズム
- 社会人・地域社会の皆様へ
  - 生涯学習
  - 産学官連携プロジェクト
  - 入学生奨励のご案内
  - 協賛校のご案内
  - ふるさとフェスティバル・産学官連携のご案内
- ボランティアについて
- 参加機関・関連機関のリンクはこちら

お知らせ

2014.07.30 **News** 教員×教員 第2回熊本大学 教育サロンのご案内  
本日のアクティビティは、いかがですか？  
～授業の工夫、学生支援のヒントを掴もう～  
■日時 9月15日(金) 18:00～17:30 18:00～情報交換会  
■会場 熊本大学 平野館1016 岡山県中区西門一丁目6-1  
■参加費 無料(情報交換会のみ 別途会費3,000円)  
お申込み・お問い合わせ先はこちらをご覧ください。  
主催:教育サロンの事務局

2014.07.30 **News** 「次世代リーダー岡山首脳連携コンペティション」出場者募集のご案内  
次世代のリーダーを志す！！  
独自の発想で競り勝ち学生同士の対決！！  
岡山県内の大学・短大・専門学校生のためのプレゼン大会の出場者募集します！  
■開催スケジュール  
・9月2日(金) 次審査エントリー受付締切  
・9月 1日(月) 次審査結果発表  
・9月27日(土) コンペティション(本審査(二次審査会))  
プレゼンテーションの成績・コンペティション参加成績などにより、こちらをご覧ください。  
主催:次世代リーダー岡山首脳連携プロジェクト(岡大)ほか

2014.07.10 **News** 「科学キッズフェスティバルin岡山」ブース出展のご案内  
大学コンソーシアム岡山に参加されている大学の中で、「科学キッズフェスティバルin岡山」ブース出展している大学を公募いたします。  
■日時 平成24年11月2日(月) 10:00～16:00  
■場所 岡山県生涯学習センター岡山県北地区伊島町1-1  
■申込締切 平成24年9月1日(金)  
・初めに出展を希望される大学は、9月1日(日)までお問い合わせ先までご連絡ください。  
・申込多数の場合は出展をお断りすることがあります。  
・開催要項、出展募集要項、お問い合わせ先などはこちらをご覧ください。  
主催:科学キッズフェスティバル実行委員会

大学コンソーシアム岡山の WEB

の中吊り広告を出されたりと、もっともっと力を入れていらっしゃることも多いですが。

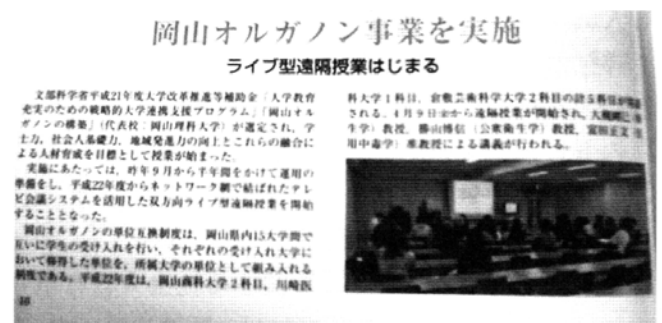
ただ、教養の部分であったり、また、入学の一つの魅力として、他学の興味ある科目を受講することも可能になるという点。さらに、大学コンソーシアム岡山として県や経済同友会が参画しているということは、その前提の目標として「県内高校生が県内大学に進学して、県内企業に就職していくことで、県の活性化と経済発展を目指す」ということがあります。

こういった状況の中で、大学コンソーシアム岡山では設立当初から単位互換制度を行ってまいりました。ただし、これは他学の授業の現場(つまり他学のキャンパスまで)に学生が出向いて、その受講をするというもので、往復の時間や各大学での授業時限の時間帯の相違などから、なかなか受講学生数も増加しない状況でした。そのような中で、大学コンソーシアム岡山から派生したプロジェクトとして、岡山理科大学(当時、代表校～ちなみに代表校は2年おきに転々とする規定になっています)を中心に、文科省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」として、『岡山オルガノン』の構築―学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育―が採択され、ここに県北の1大学を除く大学コンソーシアム岡山加盟15大学が参画しました。その中で新しい教育制度の改革として、遠隔授業配信による単位互換制度があり、参画大学にTV会議システムが導入された上で、LIVE配信授業(他学で行われている授業を生々のLIVEで、別の大学の学生がTV会議システムごしに受講するシステム)やVOD(Video on Demand)授業(予め録画されている他学の単位となる科目～他学での授業風景の録画とともに、主には、講師が新たに講義内容を収録する)による単位互換制度が開設されました。

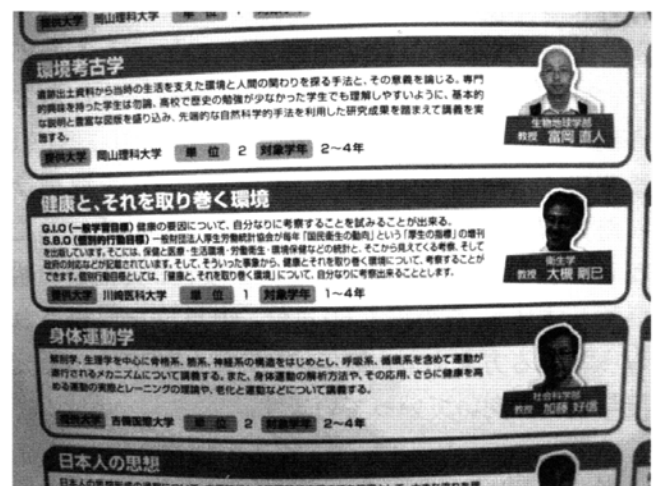
川崎医科大学の学生は、カリキュラムが単位制ではなく、また学期制を敷いていることもあって、本学の学生が他学の授業を単位互換で受講することは、実質上、非常に困難なのですが、それでも参画しているのだから、せめて配信はしようということで、偶々大抵が2年生の教養選択科目「リベラル・アーツ2」の一学期分を担当していたこともあって、そのLIVE配信を実施したり、また、その科目を教材教具センターの皆さんの協力の元に収録し、加えて、丁度、本学の大学院が岡山大学が主任を務める「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」に参画していることによりe-Learningシステムに使用出来るパワーポイント映像と講師の講義の様子が同時収録出来るデバイスが導入されていたこともあって、不足分の時限を収録したりしながら、VOD配信を行いました。

LIVE配信は2010年度から3年間実施しました。岡山大学・岡山理科大学などの学生が受講してくださり、この時にはTV会議システムを通じて、受講している他学の学生さんとも会話ができたり、質問や感想をリアルタイムでやりとりしたりなど、結構、楽しく授業をすることも出来、また、本学の選択してくれた学生も、画像の向こうに他大学の受講生が見えたり、反対に、見られていることを少し意識したりといった雰囲気の中での授業になりました。

2012年度からは、これらのLIVE配信科目を、少し編集してVOD科目として提出しています。また2014年度も、大抵はリベラル・アーツ科目担任からは外れたのですが、これまでのLIVE配信授業をVODとして配信しています。毎回、何名かの他学の学生さんが、VODにも登録してくださっています。VODの時には、編集で、90分授業の中で、いつどのタイミングで出てくるかわからない様に、その日のレポート課題



学園だよりより 遠隔LIVE授業配信の記事



平成26年度前期のVOD科目のポスター

を口頭で伝える動画を挿入して(つまり、早送りとかで見ているとレポート課題が分からないという設定)、オルガノン事業の中のWEBを介して、そのレポートを受講生は提出、こちらがそのレポートをチェックして、またコメントなどを入れて、オルガノンWEBを介して、受講生に連絡を入れるといったシステムの中で行っています。

今年度も、川崎医療福祉大学や岡山理科大学の学生さんがVOD科目を受講してくださっており、前期は合格で修了しました。二人とも、熱心なレポートを提出してくれましたし、真摯にVOD科目に向き合ってくれていることがよく分かる状況でした(ちなみに、後期は21人の受講申込がありました)。

さて、社会人教育事業部では、主に、市民への開かれた大学を目指して「吉備創生カレッジ」という市民大学を展開しております。大概はここ数年、この事業部の委員会の副主任や主任(委員長)を務めている立場になっています。いわゆる市民公開講座とは異なり(それは各大学や、倉敷市大学連携推進会議などでも展開されていますが)、吉備創生カレッジでは受講生である一般市民の方から、入学科と受講料を頂戴し、それに見合う大学の授業の一環を提示するというシステムになっています。この事業には、地元の山陽新聞社が共催という形で(もちろん、山陽新聞社も岡山県経済同友会の主要メンバーですので、大学コンソーシアム岡山には、そういった形でも関与されている訳ですが)、会場と新聞広告について全面的にご協力いただいております。

吉備創生カレッジでは、前期(4～9月)と後期(10～3月)に各大学から提供科目を募り、ここ数年はおおよそ各期30から35科目の提供を受けて、それを希望される受講生である一般市民の方が山陽新聞社本社ビルの一室を使って講義として実施されるという仕組みになっています。

川崎医科大学も毎回、科目提供をしています。人気が一番高いのは地元吉備地域の歴史や文化に関連した科目(源平合戦のことや、温羅伝説の話や、岡山藩などの話)ですが、それに次いで「医療・福祉」系の科目も人気があり、臨床の先生方などにご協力いただいて展開しています。

詳細は、毎年大槻の方で、川崎医学会が発刊する川崎医学会誌—一般教養編—に論文としてまとめて報告しております。川崎医学会WEBからご参照くだされば幸いです。ちなみに2014年度の前期には「胃腸疾患のトピックス」として【1回目：消化管疾患に関する最近の話題—教授・春間賢、2回目：消化管のがんはここまで診断・治療できる—講師・鎌田 智有、3回：ピロリ菌って?—准教授・塩谷 昭子】という提供をしていただきました。感謝でいっぱいです。

また吉備創生カレッジを展開する社会人教育事業部委員長として、大概はこのPRのためのプロモーションビデオを作ったり、次年度には、最近リピーターの受講生さんは多いのですが、ニューカマーが少ないということの解消のために、公民館やふれあいセンターなどでの出前デモ授業などを展開しようか、などと考えたりしています。

さらに、受講生の方は、基本90分3回の授業(上記の様に今年度前半も3回で1科目になっています)を2科目受講すると1単位を修了するということになり、20単位を取得されると認定証を授与されるという制度もとっています。この中で、既に100単位(つまり90分×3回×2科目(1単位)×100)を取得なさった方もいらっしゃいましたし(今年はじめにお亡くなりになられたと聞き及んでいます、ご冥福をお祈りいたします)、その後も60単位、40単位を取得されていらっしゃる方もあり、毎年、委員長としてその認定書授与式に出向いていっています。



平成25年度の認定書授与式の様子

これらの活動と別に、オルガノン事業から出発して現在、大学コンソーシアム岡山の中でも活発な活動として捉えられているものに、地域活性化事業があります。

その一つは「日ようび子ども大学」。大学コンソーシアム岡山のコンセプトを発展させて、大学が所在する地域の活性化あるいは地域の方の感じられている大学というものとの間に見えない、かつ高いかも知れない壁を取り除くこと、さらには存外に参画大学の中で子どもを対象とした学科科目なども多いことがあって、オルガノン事業の中で、開始された事業で、2014年はその4回目が6月1日に開催されました。

1回目はオルガノン事業の中で担当されていた岡山商科大学のキャンパス内で実施されたのですが、2回目からは、岡山県生涯学習センターが開催しています京山祭と時をあわせて実施することになり（京山祭では、近接の池田動物園なども入場が割引になるなども展開されています）、駐車場も確保出来るということで、毎年盛況に展開されています。

川崎医科大学では、2回目からブース出展を始めました。それには同好会である「ぬいぐるみ病院」の学生さんたちがとっても努力してくれて、大学コンソーシアム岡山内でも大好評を得る出し物になっています。「ぬいぐるみ病院」は（偶々、大槻は顧問もしていますが）、おもちゃ病院のように壊れたぬいぐるみを修復するってというような主旨ではなく、元来はぬいぐるみを患児に見立てて、医療行為（子どもたちだと、病気の治療もありますが、ワクチンなどの予防接種、あるいは負傷その他の治療なども身近かのかも知れません）や予防など、もっと言うと白衣とか医療機関自体は、怖いものでも、厭なものでもなくて、必要なことだし、大切なことなんだよっていうことを伝えることをその活動の原点としています。



平成25年度「日ようび子ども大学」での  
コールド・バスターズ

そういったコンセプトの中で、毎回、「ぬいぐるみ病院」の学生さんたちは、川崎医療短期大学の医療保育科のボランティア学生さん数名と一緒に「からだパズル」、「注射器で水鉄砲」、「自分の心臓の音を聞いてみよう」、「打腱器で膝がびよん」などの遊びながら医療器具や体の仕組みを学べる出し物に加えて、紙芝居と寸劇による「コールド・バスターズ」!!! ワクチンの大切さを本当に楽しく面白い、子どもたちが大喜びするシナリオと、衣装での寸劇を演じてくれています。これが本当に素晴らしい！集まってくれている子どもたちやお父さんお母さん、さらには大学コンソーシアム岡山の他大学の教員の方々や、会場提供の「人と科学の未来館サイピア」の職員さんたちも大ウケです。



寺田教授にも毎年、相談室でご参加いただいています。

さらに、この行事に関わってくれる学生さんたちも子どもたちの無垢な視線と向き合うことで、健康の大切さや、子どもたちとの触れ合いの中から得られる体への好奇心や天真爛漫さを学ぶことで、こどもたち同様あるいはそれ以上に瞳を輝かせてくれています。

そして、卒業生でもいらっしゃる小児科の寺田教授には、毎年「無料相談室」を開催していただき、参加された保護者の方でなにか子どもさんのことで悩みや懸念がある場合には、優しく相談に乗ってくださっています。

そしてもう一つ大学コンソーシアム岡山の地域向けイベントは「エコナイト」というものです。

これは、七夕に地球環境のことを考えて、学舎のライトダウンや、せめてその日くらいは化石燃料を使わないように「My Car 乗るまあい日」として自動車通勤を控えたり、また、その前後で、環境を考えるイベントやセミナーなどを各大学で展開しようということとともに、2012年からは岡山駅東口広場（ご記憶の同窓

生の方も多いかも知れませんが、岡山駅の地下街「一番街」がある出口側の地上の部分です、高島屋の向かい側)でエコロジーを考えるイベントを展開するものです。

イベントでは、廃油を使ったエコキャンドル(地元企業さんにご協力いただいています)で、エコに関連する絵柄を描き出したり、短冊と竹を用意して、通行の一般市民の方に、願い事を書いていただいたり、そして数大学の有志によって、アコースティックな音楽などのパフォーマンスを展開してもらったり、あるいはエコに通じるような科学の紹介をしたり、ということが展開されています。

生憎(と云っていいと思いますが)、川崎医科大学では、毎年、七夕の直前までは、第4学年までは1学期の期末試験の真っ最中、また5年生は臨床実習の最中でもあり、学生のこのイベントへの参加は適いませんでした。またライトダウンも、校舎の方は、期末試験終了直後なので、もちろん、ライトダウンされていますが、附属病院の関係もあって、中々、星空を見る程には展開できない状況でした。

それでも、せっかく大学コンソーシアム岡山の参画している大学の一つとして、また、「エコナイト」のコンセプトは素晴らしいことなので(特に、大槻は「環境保健」を授業でも受け持っていますから、尚更です)、何らかの形で参加させてもらおうと思って、大槻がパフォーマンスしてしまいました。1回目(2012年)はアコースティックギターの弾き語り、2回目(2013年)はピアノ弾き語りでオリジナル曲で、それも東日本大震災に関連した「3.11 その後」という復興支援ソングや、福島県に関連した「帰ろう」という楽曲、あるいは「生命よ、美しくあれ」という医療福祉系を目指す若者への応援歌だったりを披露しました。

しかし、2014年は、特に4年生の1学期末試験が6月27日には終了~なんと7月6日(七夕の前日ですが、イベントは日曜日の夜に実施されました)まで1週間もあるってということで、4年生の軽音楽部の学生さんに声かけしたら、4年生1名、6年生(ギリギリ、1回目の卒業試験まで2週間はあるということで、大丈夫でしょう、となりました)2名のアコースティック・バンド「GoAround Sings」が出演してくれて、3曲を披露してくれました。ちょっと大人な雰囲気のパフォーマンスで、この日はリハーサルその他の時には、ゲリラ豪雨的な雨模様で、大変だったのですが、パフォーマンスが始まることには、雨も止み、彼らのパフォーマンスでも、通りがかりの人たちをはじめ、他大学からの参加者など多くの聴衆が聴いて下さり、大きな拍手をもらっていました。

彼らは最後の「うらじゃ」に続く「総踊り」にも参加したりして、楽しい時間を過ごしてくれた様でしたし、何にもまして、環境のことを考えるべきイベントに川崎医科大学としても参加出来たことが何よりだったと思っています。

この様な感じで、大学コンソーシアム岡山への参画でも、川崎医科大学はいろいろな展開をしています。



平成24年度のエコキャンドル～東北に思いよ、届け！



平成25年度は大槻がピアノ弾き語り



平成26年度 学生バンドの演奏

大学連携としては、他に「倉敷市大学連携推進会議」にも所属しておりますが、その展開については、また、別の機会に。

大学コンソーシアム岡山への参画は、なかなか本学の学生教員は、やはり医科単科という大学の性質上、十分に活動できない側面もあります。また、大学コンソーシアム岡山自体も、途中で紹介しましたが、文科省の補助金で対応していた「オルガノン」事業を継承しつつも、もちろん、その補助金も終了している中で、各大学からの会費や事業費を中心に大学コンソーシアム岡山としての活動を展開している訳ですが、事業内容と経費の問題、もっと根底の問題としては個々の大学の独自性とこういった連携の棲み分けの問題なども抱えながらの状況にあります。

川崎医科大学として今後、どのような関連活動を展開するのか、あるいは、直接的な学生へのメリットの少なさから、向き合う姿勢をどのように持っていくかなどの課題もありますが、それでも岡山県倉敷に所在する大学として、それも医学医療の提供という側面を残しながら、いわゆる高等教育機関として、何らかの社会貢献や地域貢献の展開の一つの場として大学コンソーシアム岡山を、我々の中でどのように位置付けるかといった点も含めて、今後のことは考えていかなければならないとは感じております。

今回は、それでももう数年以上、参画している大学コンソーシアム岡山について、これまでの状況の報告をしてみました。こんなこともやっているんだ、って想いで、読んでいただいたなら幸いです。

ありがとうございました。

